

和歌集 十二

再校

和書門				
類	號	函	架	冊
二	〇	八	三	三

内閣文庫			
類	號	冊	函
和	二〇	三三	三三

内閣文庫	
番號	和 20433
冊數	20 (13)
函號	263 38



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

萬葉集卷第十三

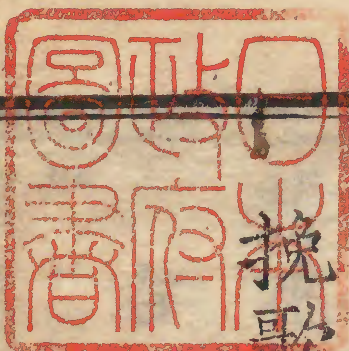
雜歌二十七首

相聞歌五十七首

問答歌十八首

譬諭歌一首

挽歌二十四首



淺草文庫

○ 卯
○ 卯
○ 卯
○ 卯

萬葉集卷第十三

雜歌二十四首

雜歌一首

雜歌十八首

雜歌五十五首

雜歌二十首

雜歌卷第十三

△卷十八夜麻乃許奴禮改以礼奉為尔考のいれはやしら多ハ木の字礼の乃字の納之ニハ木の具礼の乃

雜歌 是中長歌十六首

冬木成春去來者朝爾波白露置夕爾波霞多

奈妣父汗湍能振樹奴禮我之多爾鷺鳴母

右一首

三諸者人之守山本邊者馬醉木花開末邊方

椿花開浦妙山曾泣兒守山

右一首

霹靂之日香天之九月乃鍾禮乃落者鴈音文

成ハ盛ノ

カスミタナヒ

ソノアノフハ

トハ誇フハ

カスミタナヒ

カシトケウシ

香下破了凡歎

具の乃

文未ノ二字
率ノ字ノ
誤可成
三田屋ノミハ
御ノ字ノ田
則神ノ田ヤ
屋ハソノ田ヲ
守ル屋ノカキ
ツ田ハ神田ノ
カコヒニ堤ヲ
シテ大加シ
タルノミハ
カキツ田ノ池
ノ堤トマケ
タルハテイ
イニクハシク
ニヤハ神田ヨ
ル屋ノ
垣ツ田ハ大和ニカキ
ノ山トヨメル山ノ田
ナルヘ

未來鳴神南備乃清三田屋乃垣津田乃池之

堤之百不足三十櫬枝丹水枝指秋赤葉真割

持小鈴文由良爾手弱女爾吾者有友引攀而

峯文十遠仁椽手折吾者持而往公之頭刺荷

反歌
獨耳見者感染神名火乃山黃葉手折來君

此一首入道殿讀出給

右二首

ハツセノ川ハ
舟ヲヨスルト
ノ大河ニテナク
トモコキイリ
コト川ヲメテ
去

天雲之影寒所見隱來笑長谷之河者浦無蚊
船之依不來磯無蚊海部之釣不為吉咲八師
浦者無友吉盡矢寺磯者無友與津浪淨撈入
來白水郎之釣船

友歌

沙邪禮浪浮而流長谷河可依磯之無蚊不怜

也

右二首

モミテ
ハミテ
クテ
キリ
ヨケ
テト
ミル

長流説泊瀬ニ海人ノ釣舟ノ入ムコトヲ願ヒタルハ
思フ意アリケルカトイヒツヘシトナルヨシ

湯
海
梅
誤
而
行
字
ト
云

手向ハスナト
ヨクムクトト
ハコハ異也
タケハ平ケル
ヤ
タムケハ平ル意
ナリ他所ト異

枕根誤
アメラヨトハ
新都ノイ
生タメカキハ昔
ウキメル詞ニ

カモヒスキヤ
ワスレマシキ
トモシ

アミハラノ三ツホノクニ、タムケストアモリニシケムイホ
葦原笑水穗之國丹手向為跡天降座兼五百
ヨロツチヨロツカミノカミヨヨリイヒツギキテアルカミナ
萬千萬神之神代從云續來在甘南備乃三諸
ハルサレハハルカスミタキアキユケハクヒ井二ホフカミナ
山者春去者春霰立秋往者紅丹穗經甘嘗備
ノ三モロノカミノキニセルアスカハノミヲハヤミ
乃三諸乃神之帶為明日香之河之水尾速生
タメカタキイハカミコケムスニテニアツラヨ
多米難石枕羅生左右二新夜乃好去通牟事
ハカリメニミエコソツルキタチイハヒツツカミニ
計夢爾令見社劔刀齋祭神二師座者
反歌
カミナヒビノミムロノヤミニカクレタルスキ
神各備能三諸之山丹隱藏杖思將過哉蘿生

イシシイイ
ノ多キニ五十
ニカキラス
ノシハ又サ
トモシモハモ
スノナクムラ
シキト

直云
此等ハ滯留ヲ訪
社ニ奉ル時助
使役社ヲ廻リテ
ヲ外人ノヨルカ
穂積ノ市郡
今蒲津村トあり
坂手ノ市郡坂
門神社アリ

左右
イ クシタテミワスエツルカミヌレノウスノタマカケミレハ
五十串立神酒座奉神主部之雲聚玉陰見者
トモシモ
之文
髻華 此云 推古紀
三上ノ詠ヲ短歌トシテ證ス

右三首但或書此短歌一首無有載之也
帛川猶從出而水蓼穗積至鳥網張坂手乎過
石走甘南備山丹朝宮仕奉而吉野部登入座
見者古所念
反歌

ツキニヒモカハリユツトモヒサニフル 三モロノヤラトツツミヤトコロ
月日攝友久經流三諸之山礪津宮地

此歌入道殿讀出給

右二首但或本歌曰故王都跡津宮地也

斧取而丹生檜山木折來而機爾作二握貫磯

撈回乍島傳雖見不飽三吉野乃瀧動動落白

浪

旋頭歌

三芳野瀧動動落白浪留西妹見卷欲白浪

機 官本本
作機
阿野本作機

久老神主曰之毛
ノ上ニ國者直ノ
三字脱スル歟

マシハシハ目ニ
クハシキ

イシノ宮ハ聖武
ノ行宮歟

大宮ハ秋文
ノヤ

右二首

八隅知之^カ和期^カ大皇^カ高照^カ日之皇子^カ之聞^カ食御

食都國神風之伊勢乃國者國見者之毛山見

者高貴之河見者左夜氣久清之水門成海毛

廣之見渡島名高之已許乎志毛間細美香母

挂卷毛文爾恐山邊乃五十師乃原爾内日刺

大宮都可倍朝日奈須目細毛暮日奈須浦細

毛春山之四名比盛而秋山之色名付思吉百

磯城之大宮人者天地與日月共萬代爾母我

反歌

山邊乃五十師乃御井者自然成錦乎張流山

可母 此歌入道殿下令讀出給

右二首

空見津倭國青丹吉寧山越而山代之菅木之

原血速舊于遲乃渡瀧屋之阿後屋之原尾千

歲爾闕事無萬歲爾有通將得山科之石田之

ソラニツツヤマトノミアラニ
ラニミテ
トモ
寧ノ下樂
カヨフハ
アリカヨフハ
アリカヨフハ
カヨフハ

森之須馬神爾奴左取向而吾者越往相坂山
遠

或本歌曰

緑青吉平山過而物部之氏川渡未通女等爾

相坂山丹手向草絲取置而我妹子爾相海之

海之與浪來因濱邊乎夕禮夕禮登獨曾我來

妹之目乎欲

反歌

此等
ラニ
ス
別ノ
歌ハ



遠ヲ云詞ハ

相坂乎打出而見者淡海之海白木綿花爾浪
立渡

右三首

近江之海泊八十有八十島之島之埼邪伎安
利立有花橘乎末枝爾毛知引懸仲枝爾伊加
流我懸下枝爾此米乎懸已之母乎取久乎不
知已之父乎取久乎思良爾伊蘇婆比座與伊
加流我等此米登

紀所植
イカルカ
マメマハ
シメハ
キキス
メ
イソ
ハハ
ヘルト

山右一首

王命恐雖見不飽猶山越而真木積泉河乃速
瀨竿刺渡千速振氏渡乃多企都瀨乎見乍渡
而近江道乃相坂山丹手向為吾越往者樂浪
乃志我能韓培幸有者又反見道前八十阿每
嗟乍吾過往者彌遠丹里離來奴彌高二山文
越來奴劔刀鞘從拔出而伊香胡山如何吾將
為往邊不知而

泉川今ハ
コフミ
ハ

日本紀 擊子ノ字ヲタカキスト訓リカクハ擊子ナレハ拔出シカト
ワケケリイハ桑語

反歌

天地乎アメツチヲ難乞ナカキコヒノム禱幸有者サキクアラハ又反見思我能タカカハミムレカソノカラサキ韓琦カハラサキ

右二首但此短歌者或書云穗積朝臣老配元正紀云

於佐渡之時作歌者也景行紀美濃

百岐年三野之國之高北之八十一隣之宮爾三ヤニ

日向爾行ヒナカヒニ靡闕矣有登聞而吾通道之奥十山オキソノヤニ

三野之山ミノノヤマ靡得人雖跡如此依等人雖衝無意オキソノヤニ

山之奥ヤマノオキ磯山三野之山イソヤマミノノヤマ

オキソノ山ハ今信濃ノ山ニシテハ美濃ノ山ニシテハ三野野山ニシテハ吉野山ニシテハ信濃ノ山ニシテハ信濃ノ山ニシテハ

右一首

處女等之麻ヲトメノラカヲ笥垂有續麻成長門之浦丹朝奈ナヌナカトノウラニアサナ

祇爾滿來キニミナクルシホノ益之夕奈祇爾依來波乃波益乃伊ヨリクルナニノナミシホノイ

夜益ヤニスミスニ舛ソノナミノイ二彼浪乃伊夜敷布二吾妹子爾戀乍ニベニニコヒツ

來者阿胡之海之荒磯之於丹濱菜採海部處クレハアコノウミノアライツノウヘニハミナツムアマラト

女等メ纓有領巾文光ラカニシヒタルヒ釐手二卷流玉毛湯良羅テルカニテニメケルタマモユララ

爾白栲乃袖振所見津相思羅霜ニシロタヘノソテフ川ミサツアヒカモララシモ

反歌

阿胡津國志廣此處阿胡ハ津國志廣此處阿胡ハ津國志廣此處

漢書云子ヲナフカレヨルナラム後漢書云子ヲナフカレヨルナラム後漢書云子ヲナフカレヨルナラム

加茂御訓
幸直云神代紀
天清橋のり
丹後風土記の
天橋立を
のりし合ふ

阿胡乃海之荒磯之上之小浪吾戀者息時毛

右二首

天橋文長雲鴨高山文高雲鴨月夜見乃持有

越水伊取來而公奉而越得之早物

反歌

天有哉月日如吾思有公之日異老落惜毛

右二首

地名大和ノ川可成 延靖帝ノ御名ヲ神津名川耳尊ト申奉ルモ也ヨリテ名ナレハケレハ何レチカハ大和ノ内リ

沼名河之底奈流玉求而得之玉可毛拾而得

右一首

相聞

此中長歌一十九首

式島之山跡之土丹人多滿而雖有藤浪乃思

反歌

式島乃山跡乃土丹人二有年念者難可將嗟

自二或二自
倒歌
又二或自ハモト
同ノ字ニテ後人
自ニ誤歟知ラズ
君カ目ニトヨラシ
君カ面影ト云カ
如シ六帖君カメ
メト云セリ

アタラシキハ
ヲシキトホ
フシ

ヤマトノ國ニ
ナキニテハ
ウツタヘテ
フモナケレトモ
ワレハ甚モ
オモフ敬神ニ
ウツタヘテ
カト

右二首

蜻島倭之國者神柄跡言舉不為國雖然吾者
事上為天地之神毛甚吾念心不知哉往影乃
月文經往者玉限日文累念戸鴨胃不安戀列
鴨心痛未遂爾君丹不會者吾命乃生極戀乍
文吾者將度犬馬鏡正目君乎相見天者社吾
戀八鬼目
反歌

上ノ五歌ア
ラス送別ノ
哥ナルベシ

大舟能思憑君故爾盡心者情雲梨
久堅之王都乎置而草枕羈往君乎何時可將
待

柿本朝臣人麿歌集歌曰

葦原水穗國者神在隨事舉不為國雖然辭舉
叙吾為言幸真福座跡恙無福座者荒磯浪有
毛見登百重波千重浪爾敷言上為吾

反歌

此等可別ノ奇

三ツカキノヒサシキヨルユヒスレハワカセヒユルアサコトニ
楛垣久時從戀為者吾帶綾朝夕每

（ニセトヨムキトカサレト久シキニツクヤウ心得ス）

右三首

己母理久乃泊瀬之河之上瀬爾伊杵乎打下
湍爾真杵乎格伊杵爾波鏡乎懸真杵爾波真
玉乎懸真珠奈須我念妹毛鏡成我念妹毛有
跡謂者社國爾毛家爾毛由可米誰故可將行
檢古事記曰伴歌者木梨之輕太子自死之
時所作者也

古一鏡玉ヲモテ神カケテ神ヲホリ合ムクフルニ用ヒシテ有コトトユ

其反歌ナラス古事記ニ反歌ナシ反歌ハ舒州天皇ヨリヨメリ

反歌

年渡麻豆爾毛人者有云乎何時之間曾母吾
戀爾來

是ハ人ニ別レテスモナクモツル性ノ有ル

或書反歌曰

世間乎倦跡思而家出為吾哉難二加還而將

此等誤リテ在長歌ニツラ子ナルナレハ

右三首

春去者花咲乎呼里秋付者丹之穗爾黄色味

上ヨリシヨク僧ノヨル歌ヤ定出ヲ日本紀傳ノフチナリ此歌カリテトキフアリ運俗シタルナレハハカクハ母ノ

酒ヲ醸ストワ、ケタリ

酒乎神名火山之帶丹為留明日香之河乃速
瀬爾生玉藻之打麩情者因而朝露之消者可
消戀久毛知久毛相隱都麻鴨

反歌

明日香河瀬湍之珠藻之打麩情者妹爾因來
鴨

右二首

三諸之神奈備山從登能陰雨者落來奴雨霧

大和高市郡

時カ居所カ

相風左倍吹奴大口乃真神之原從思管還爾
之人家爾到伎也

反歌

還爾之人乎念等野于玉之彼夜者吾毛宿毛

寢金手寸

右二首

刺將燒少屋之四忌屋爾搔將棄破薦乎敷而

所搔將折鬼之四忌手乎指易而將宿君故赤

將ハ所ノ誤
サニヤカムカキ
スラムトムカテ
ヨナリ
所ノ宮衙文ニテ
カキヲラント云
ニ

ミラハソノマ
トフイ
スカラハサナカラ
トフイ

トコノヒトナ
マテトハナケテ
音ノシテトコ
ノヒシクトナ
ルシモモノ思
テイモモス俗
テ子カヘリソ
ル音ナリベシ
ウマイセムハ
度々子カヘ
シスルモノ

ウチハハワサ
クトフ
コハ他ナト
ヲナガクヒキ
ハタルモ
オヤノハ先祖
ノト

根刺畫者終爾野于玉之夜者須柄爾此床乃
比師跡鳴左右嘆鶴鴨

反歌

我情燒毛吾有愛八師君爾戀毛我之心柄

右二首

打延而思之小野者不遠其里人之標結等聞
手師日從立良久乃田付毛不知居久乃於父
鴨不知親親已之家尚乎草枕客宿之如父思

行ノ莫
行ノ莫
字長カ

空不安物乎嗟空過之不得物乎天雲之行莫
莫蘆垣乃思亂而亂麻乃麻笥乎無登吾戀流
千重乃一重母人不令知本名也戀牟氣之緒
爾為而

反歌

二無戀乎思為者常帶乎三重可結我身者成

右二首

為領部乃田付呼不知石根乃與凝敷道乎石

敗夫ニ正セル婦ヲ恋ハ故共賤ヲ罵リチヨル
加藤翁云云ウリウリウリウリウリウリウリウリ
ヤハハ

此詩素良人のいそぐやあやうひるし物
おまじかしのすまじしうしあひるし
どうしやわが身を思ふ

後々ニセシスノメツキモトハイカ、何レモノ
ト入ルリ、スルニヤ

○の上ホウの
ウツクシク
カミ

來笑根延門呼朝庭丹出居而嘆夕庭入居而
思白栲乃吾衣袖呼折反獨之寢者野于玉黑
髮布而人寢味眠不睡而大舟乃往良行羅二
思乍吾睡夜等呼續文將敢鴨

反歌

一眠夜算跡雖思戀茂二情利文梨

右二首

百不足山田道乎浪雲乃愛妻跡不語別之來

此哥姑曾ノ
哥後ハセノ
哥心

二首
モレタリ

ハヤカハノユカリ
モココモテノ
カハルモ
何モ
冠持
玉ノ身ヨリ跡
ノミヤハ
恐ハ誤ナルハ
▲ヨリ下セテ
ナルハ

者速川之往文不知衣袂笑反裳不知馬自物
立而爪衝為須部乃田付乎白粉物部乃八十
乃心呼天地二念足橋玉相者君來益八跡吾
嗟八尺之嗟玉梓乃道來人之立留何常問者
答遣田付乎不知散鈎相君名曰者色出人可
知是日木能山從出月待跡人者云而君待吾
乎

反歌

是ヨリ下ナム卷二一首出女ノ

此高野ニササキ
誰ハ詠ノ詠ニ

世無クハハシ思
書ハ下ノ公ト云
ルニテ男ヲ指リ

如養育ハ別
高野ニササキ
人カクハハシ

メナレリハタ
メラレシル
下ニ

眠不睡吾思君者何處邊今身誰與可雖待不
来

右二首

赤駒廐立黑駒廐立而彼乎飼吾往如思妻心
乘而高山峯之手折丹射自立十六待如床敷
而吾待公犬莫吠行年

反歌

鞆垣之末搔别而君越跡人丹勿告事者棚知

右二首

妾背兒者雖待不來益天原振左氣見者黑玉
之夜毛深去來左夜深而荒風乃吹者立留待
吾袖爾零雪者凍渡奴今更公來座哉左奈葛
後毛相得名草武類心乎持而三袖持床打拂
卯管庭君爾波不相夢谷相跡所見社天之足
夜了

或本歌曰

衣服良
左右ノ袖ヲ
マソテトキミ
ソテモトシ
アマノタリ夜
トキハナカキ
夜ヤ

萬葉卷十三

卅六

卷十九ノ九ノ吾ヲ君ニ詠レリ此吾君ノ
詠ナルヘシキミカクボトノ可讀

説ニアラレト
テ梅ハ床ヲ
敷設也

タテシリハ女子ニシリ此女子ヲ給ト同言ノヨシ云説ハ不其心給ハ人ヨリモノヲ
タテトカカ本テ其タテトカハテアリトホムヨリズル君ノ玉モノナトオツカモヒ
ハスヘシ何ラテモ物語ナト云ハ人ヲアかんヨリニテ自ラモイヘリ奉ハ上モタ

冬ノ長夜ヲ云吹物ノ文勢ノ畧也

萬葉卷十三

上ノ音ヨリハオド
レリ

叔

此五哥スコミ
カハスハ後
アハスハ中
此及哥ヨレ
匠名アリの本
のそと入
五哥をいす
らりーヤリヤ

吾背子者待跡不來 鴈音文動而寒 烏玉乃宵
毛深去來左夜深 跡阿下乃吹者立待爾 吾衣
袖爾置霜文冰丹 左麴渡落雪母凍渡奴今更
君來目八左奈葛後文 將會常大舟乃思憑迹
現庭君者不相夢 谷相所見欲天之足夜爾
反歌
衣袖丹山下吹而寒 夜乎君不來者獨鴨寢
今更戀友君爾相目八 毛眠夜乎不落夢所見

欲

右四首

管根之根毛一伏三向 疑呂爾吾念有妹爾縁
而者言之禁毛無在 乞常齋戸乎石相穿居竹
珠乎無間貫垂天地之神 祇乎曾吾祈甚毛爲
便無見

今案不可言之因妹者 應謂之縁君也何則

反歌云公之隨意焉

名々モハ小竹ニモ
付ルナラハ神行ニ
リ

齋

反歌

足千根乃母爾毛不謂畏有之心者縱公之隨

意

或本歌曰

玉手次不懸時無吾念有君爾依者倭父辨乎
手取持而竹珠呼之自二貫垂天地之神呼曾
吾乞痛毛須部奈見

反歌

シラハ古シノアヤカ
テハ古ク云クノカ

卷五出
ユルスキニカ
去ルシユルヤル

○脱句字
倭父ニテ
ルニサシ

乾地乃神乎禱而吾戀公以必不相在目八方

或本反歌曰

大船之思憑而木始已彌遠長我念有君爾依
而有言之故毛無有欲得木綿手次肩荷取懸
忌戸乎齊穿居玄黃之神祇二衣吾祈甚毛爲
便無見

右五首

御佩乎劔池之蓮葉爾渟有水之往方無我爲

久老神主曰木本
誤テ子ト訓ヘ始
如ノ誤ニテ也ニ
モコト訓ヘシ

萬葉集卷五

卷一三山の
後考ふゆい
口

時爾應相登相有君乎莫寢等母寸巨勢友吾
情清隅之池之池底吾者不忍正相左右二

反歌

古之神乃時從會計良思今心文常不所念

右二首

三芳野之真木立山爾青生山管之根乃懸慙
吾念君者天皇之遣之萬萬夷離國治
爾登夷治尔等群鳥之朝立行皆後有我可

將戀奈客有者君可將思言牟為便將為須便
不知或書有足日木山延津田乃歸之
也別之數惜物可聞

反歌

打蟬之命乎長有社等留吾者五十羽早將待

右二首

三吉野之御金高爾間無序兩者落云不時曾
雪者落云其雨無間如彼雪不時如間不落吾

者曾戀妹之正香爾

ソノ時ノ尚付ノ今俗ニサカノ時ト云

反歌

三雪落吉野之高二居雲之外丹見子爾戀度
可聞

右二首

打久津三宅乃原從當土足迹貫夏草乎腰爾
莫積如何有哉人子故曾通簀文吾子諾諾名
母者不知諾名父者不知蝻腸香黑髮丹真

一説
ウチノトヨミシテ
テナハシラスナ
ケハシラスト可
讀飲ト云

△
又何邪志カ
アサハ苜蓿菜
髪ニヒタルカアサ
ノ形ニ似タル

木綿持阿邪左結垂日本之黃楊乃小櫛乎抑

刺刺細子彼曾吾媿

反歌

父母爾不令知子故三宅道乃夏野草乎菜積
來鴨

右二首

玉田次不懸時無吾念妹西不會波赤根刺日
者之彌良爾烏玉之夜者酢辛二眠不睡爾妹

戀舟生流為便無

反歌

縱惠八師二二史四吾妹生友各鑿社吾戀度

七

右二首

見渡爾妹等者立志是方爾吾者立而思慮不安國嘆虛不安國左舟沫之小舟毛鴨玉纏之小檝毛鴨撈渡乍毛相語妻遠

或本歌頭句云 已母理久乃波都世乃加波乃乎知可多爾伊母良波多多志已乃加多爾和禮波多知也

右一首

忍照難波乃埼爾引登赤曾朋舟曾朋舟爾網取繫引豆良比有雙雖為日豆良賓有雙雖為有雙不得叙所言西我身

右一首

ヒコツフハヒヒ キワワラヒヒ アリナシハアリ...

此等紀伊國
任ナトニ行人ノ
カトトモナヒカ
カ其世ノ死ニ
ヲイタメルキ
如茂翁ノ下
ニテト地歌
ノトモナヒカ

カミカ世ノイセノウミノアサナキニキヨルフカミルユフ
神風之伊勢乃海之朝奈伎爾來依深海松暮
ナキニキヨルマタニル
奈藝爾來因俟海松深海松乃深目師吾乎俟
三ノルノマタユキカヘリツマトイハレトカモオモホセ
海松乃復去及都麻等不言登可聞思保世流
君
此等紀伊國ノ下ニテ地歌ノトモナヒカ

右一首

年滿郡ノ江ニテ能野ヲ云ナルヘシ

紀伊國之室之江邊爾千年爾障事無萬世爾
カクニアラムトキホフ子ノオモヒタノミテ
如是將有登大舟乃思恃而出立之清澱爾朝
ナキニキヨルフカミルユフナキニキヨルナハノリフカミ
名寸二來依深海松夕難伎爾來依繩法深海

長ハ化カ

松之深目思子等遠繩法之引者絶登夜散度
人ノユキ心ツクニナクコナスニキトサ
人之行之長爾鳴兒成行取左具利梓弓弓腹
フリギミレノキハヲフツタハサハナチケムヒトレ
振起志之岐羽矣二手挾離兼人斯悔戀思者

右一首

△鳴ハ鳴ノ字テヲノコナスニヤ

里人之吾丹告樂汝戀愛妻者黃葉之散亂有
カミナヒノコノヤマヘカラ
神名火之此山邊柄或本云烏玉之黑馬爾乘
テカハセヲナハセワタリテウラフレテツマニアヒトヒトソツケ
而河瀬乎七湍渡而裏觸而妻者會登人曾告

鶴

明日川

夫ヲ云ヘシ

此哥里人之
吾丹ノ上ノ
アルカ

此ナホ直道
の直ニナホク
の云

反歌
不聞而然黙有益乎何如文公之正香乎人之
告鶴

右二首

問答

物不念道行去毛青山乎振放見者齒花香未
通女櫻花盛末通女汝乎曾母吾丹依云吾叫
毛曾汝丹依云荒山毛人師依者余所留跡序

云汝心勤

反歌

何為而戀止物序天地乃神乎禱迹吾八思益
然有社歲乃八歲叫鑽髮乃吾同子叫過橘末
枝乎過而此河能下文長汝情待

反歌

天地之神尾母吾者禱而寸戀云物者都不止
來

上ノ反歌ハ
ラサレカホ
天地ノ神ヲ
ワレハ異本
哥カ
此等然有社
ノ上ニウアリ
タルナルハ
鑽髮ハ髪ノキ
ヲ云

是ハ上ノ何爲
ノ異本ノ哥カ

萬葉集卷十三

三十三

柿本朝臣人麿之集歌

物不念路行去裳青山乎振酒見者都追慈花

爾太遙越賣作樂花在可遙越賣汝乎叙母吾

爾依云吾乎叙物汝爾依云汝者如何念也念

社歲八年乎斬髮與和子乎過橘之末枝乎須

具里此川之下母長久汝心待

右五首

隱口乃泊瀬乃國爾左結婚丹吾來者棚雲利

等上ノ口
コノハハハ
タリニ首
一首ナリタリ
太ッホトヨメル
コト古事記日本紀
ニ見エタリ

與平之

男ノ妹が門ニモ
立テヨメルロ

この長歌の
少當作小

雪者零來奴左雲理雨者落來野鳥雉動家鳥
可鷄毛鳴左夜者明此夜者旭奴入而且將眠
此戸開為

反歌

隱來乃泊瀬少國爾妻有者石者履友猶來來
隱口乃長谷小國夜延為吾大皇寸與與床仁
母者睡有外床丹父者寢有起立者母可知出
行者父可知野于玉之夜者相去奴幾許雲不

シナテルハサヌ
カタノカタニ
ワ、キタル

江坂郡 譬喻歌

師各立都久麻左野方息長之遠智能小管不
連爾伊苜持來不敷爾伊苜持來而置而吾乎
令德息長之遠智能子管

右一首

挽歌

挂纏毛文恐藤原王都志彌美爾人下滿雖有
君下大座常往年緒長仕來君之御門乎如

コトアスキテミ
ツ、カケテ
カケテ
カケテ

天仰而見乍雖畏思憑而何時可聞曰足座而

十五日之多田波思家武登吾思皇子命者春

避者殖槻於之遠人待之下道湯登之而國見

所遊九月之四具禮之秋者大殿之砌志美彌

爾露負而靡芽子乎珠手次懸而所俚三雪零

冬朝者刺楊根張梓矣御手二所取賜而所遊

我王矣煙立春日暮喚犬追馬鏡雖見不飽者

萬歲如是霜欲得常大船之憑有時爾淚言目

涙言例也

我日本國

大和宮

神尊

カモヨヘルモトノヲ フリサケミレハ シロタヘ カサリニツテ ウキヒ サス

鴨迷大殿矣振放見者白細布飾奉而内日刺

宮舎人方一云雪穗麻衣服者夢鴨現前鴨跡

雲入夜之迷間朝裳吉城於道從角障經石村

乎見乍神葬葬奉者往道之田付叫不知雖思

印乎無見雖嘆與香乎無見御袖往觸之松矣

言不問木雖在荒玉之立月每天原振放見管

珠手次懸而思名雖恐有

反歌

古玉

角障經石村山丹白榜懸有雲者皇可聞

右二首

磯城島之日本國爾何方御念食可津禮毛無

城上官爾大殿乎都可倍奉而殿隱隱在者朝

者召而使夕者召而使遣之舍人之子等者行

鳥之羣而待有雖待不召賜者劔刀磨之心乎

天雲爾念散之展轉土打哭杼母飽不足可聞

右一首

白皇太子

オモヒハフ...

ウレモナ...

天武の時
三野王天武紀持
統紀出光栗隈
王ノ子攝左大臣
父也

豊後國大分郡
於於伊多ト
トヨシトヨシ
郡ノ破田ト書
依ニサニコトナル
文モナシ

青雲白雲ト
月ノクヨシタル
所モアリ
此歌夫ノ羈中
ヒラケトイタテ
ヨナル也

七月ハ新ノフ
クムトキフデ
フクニ月ノソ
物テフミ月ト
去八月ハ新ノ
ハリトキフテ
イナカリ月ニ
ソナリ物メテ
ナリ月ト也

表ノウナシ
ナトハ別コモリ
トミユ
鳥モ之
ハ別者
沈入

百小竹之三野王金鹿立而飼駒角鹿立而飼
駒草社者取而飼旱水社者挹而飼旱何然大
分青馬之鳴立鶴
反歌
衣袖大分青馬之嘶音情有息常從異鳴

右二首
白雲之棚曳國之青雲之向伏國乃天雲下有
人者妾耳鴨君爾戀盪吾耳鴨夫君爾戀禮薄

天地滿言戀鴨曾之病有念鴨意之痛妾戀叙
日爾異爾益何時橋物不戀時等者不有友是
九月乎吾背子之偲丹為與得千世爾物偲渡
登萬代爾語都我部等始而之此九月之過莫
乎伊多母為便無見荒玉之月乃易者將為須
部乃田度伎乎不知石根之許凝敷道之石床
之根延門爾朝廷出居而嘆夕庭入座戀乍鳥
玉之黑髮敷而人寢味寢者不宿爾大船之行

アムツニニ
イハカ子
コノナカ
ツキノ
スキマク
ハレハ
セム
ス
コヒツ
又ハ
ユク

久老神主
曰コノ
イハカ
子ノ
コノ
ナカ
ツキノ
スキマク
ハレハ
セム
ス
コヒツ
又ハ
ユク

ラ ヌクラニ オモヒツ、ワカヌルヨ ラ ハ カハモ アヘ又 切
良行良爾思乍吾寢夜等者數物不敢鳴

右一首

コモリクノハツセノカハノカハニニウヲヤツ
隱來之長谷之川之上瀬爾鶉矣八頭漬下瀬
ニウヲヤツカハニニウヲヤツカハニニウヲヤツ
爾鶉矣八頭漬上瀬之年魚矣令咋下瀬之鮎
ヲクハニニウヲヤツカハニニウヲヤツカハニニウヲヤツ
矣令咋麗妹爾鮎遠借投左乃遠離居而思空
ヤスカラナクニナクソラヤスカラナクニキヌコソハツツヤレハヌヒツ、モマタ
不安國嘆空不安國衣社薄其破者縫乍物又
モアフトヘタマコソハツツヤレハヌヒツ、モマタ
母相登言玉社者緒之絶薄八十一里喚雞又
モアフトヘタマモアハヌモノハツツマニニウアリケリ
物逢登日又毛不相物者媿山志有來

粘遠惜ハカ
祥不問カ
トモトモトモ

投左へ投箭ト
シニテヒトサト
カセリ
アユアエトトトホ
サカリ井チサノ時
スクルヲアツタラ
シク思フカモニ
アユアエトトトホ
山丹ノ誤ナル

コモリクノハツセノカハノカハニニウヲヤツ
隱來之長谷之山青幡之忍坂山者走出之宜
ヤニノイニタキノラハニキヤマソアタラシキヤマンア
山之出立之妙山叙惜山之荒卷惜毛
タカヤマトウニコソハヤマンニカクモウツツウニニカ
高山與海社者山隨如此毛現海隨然直有目
ヒトハアタモノソウツセミノヨヒト
人者充物曾空蟬與人

右三首

ミコトカニコミキツシマヤドラスキテオホトモノミツノ
王之御命恐秋津島倭雄過而大伴之御津之
ハニヘユホフ子ニマカチレ、ヌキアサナキニカコノ
濱邊從大舟爾真樗繁貫且名伎爾水手之音
シツ、ユフナキニカチカトシツ、コキニキミイツ、キマサムト
為尔夕名寸爾樗音為乍行師君何時來座登

忍坂ハ大和國城上
郡有テ名在物モ
長谷川津勢 忍坂
於依ト並テ書リ
サナコハ史ニモホニ
押坂忍坂ナト書テ
オシサカレト神武
紀ノ奇ヨリ初ア
於依トアレハ古
シヨリ思キテヨビ
シナルヘシ

山海ノ現前ト右來
ノマシ人ハサマ
ラス

恩 大和國ノ地名

大夕中置而齋度爾枉言哉人之言鈞我心盡
之山之黃葉之散過去常公之正香乎

反歌

枉言哉人之云鶴玉緒乃長登君者言手師物
乎

右二首

玉粹之道去人者足檜木之山行野往直海川
往渡不知魚取海道荷出而惶八神之渡者吹

ツ、ハ、ハ
タ、ケト云

蛾、湯音
蝦、ニス、ハ、

可愛
遊仙窟

風母和者不吹立浪母踈不立跡座浪之立塞

道麻誰心勞跡鴨直渡異六

鳥音之所聞海爾高山麻障所為而與藻麻枕

所為蛾葉之衣浴不服爾不知魚取海之濱邊

爾浦裳無所宿有人者母父爾真名子爾可有

六若葛之妻香有異六思布言傳八跡家問者

家乎母不告名問跡各谷母不告哭兒如言谷

不語恩鞠悲物者世間有

高麗卷世

三十一

高麗卷世

三十一

玉梓之道長
者足備木之
七哥ノ反哥カ

此哥ハエノ鳥幸
ノ反歌
四ノ反ハ玉梓之
三ノ反ハ玉梓之
ハセリ

反歌

母父毛妻毛子等毛高高二來跡待異六人之

悲沙

蘆槍木乃山道者將行風吹者浪之塞海道者

不行

或本歌

備後國神島濱調使首見屍作歌一首并短

歌

上ノ二首ノ混雜

イルフナハハ
コトノナルト

玉梓之道爾出立輦引乃野行山行濼川往涉

鯨名取海路舟出而吹風裳母穗舟者不吹立

浪裳篋跡丹者不起恐耶神之渡乃敷浪乃寄

濱邊丹高山矣部立丹置而汨潭矣枕舟卷而

占裳無偃為公者母父之愛子舟裳在將稚草

之妻裳將有等家問跡家道裳不云名矣問跡

名谷裳不告誰之言矣勞鴨腫浪能恐海矣直

涉異將

腫ハ童ニテミキナシク

北谷抄三照射綾
搜神記云其志
時交實常照射
見白鹿射中之
晨尋蹤血矢今
俗云照射上毛
深血加利

コトサケハトキ
ハ新ノ句ア
リメル可成
琴酒殊敏
當ハ南ニ
ワリ用

反歌

アレヘ ユクカリノ ツバサヲ ミルワカレテキミカ キヒコ レナクヤ レ
葦邊往鴈之翅乎見別公之佩具之投箭之所
思 大ヲ思フノヨリ 翅 古本

右二首但或云此短歌者防人妻所作也然

則應知長歌亦此同作焉

欲見者雲井所見愛十羽能松原少子等率和
出將見琴酒者國丹放嘗別避者宅仁離南乾
坤之神志恨之草枕此羈之氣爾妻應離哉
三ノホハ クモ井ニ三五ヤ 夕クキトハ マツハラワトリコ トイサ田
イテ ミム コトサケハクニ サケ十ウカレハ ハ イヘニ カシナムア
少子ノ カミレ ヲラヌレ クサマクラコノタヒノケ ニ ツミカレヘシヤ

便

反歌

草枕此羈之氣爾妻放家道思生為使無
或本歌曰羈乃氣二為而
クサマクラコノタヒノケニ ツミサカリイヘチ オモハイケルスヘナシ
タヒノケニレテ

右二首

萬葉集卷第十三

天明二年五月廿二日茶本田久老神主ノ本ト再校 永井幸百

